

社会福祉法人 楽山会
椎の実子供の家
平成29年度 事業報告

新保育所保育指針が改訂され、平成29年3月31日に厚生労働省から公示された。特徴的な点は「乳児保育の充実」と「幼児期の教育機能の向上」である。そこに重点をおいて、勉強会を行った。30年度は実際に幼稚園見学などを実施し、引き続き勉強を行い、保育の実践に反映できるように努める。

椎の実子供の家園舎建替えプロジェクトでは、28年度に先進保育園視察結果を生かし、「私たちの理想とする保育園」として話し合いを行いまとめとした。

平成29年度 重点目標

- I 生活や遊び、運動を通して「生きる力」を育む保育の推進
- II 人材育成のための階層別研修計画の実施
- III 衛生管理、安全管理の周知及び徹底
- IV 地域活動の取り組み及び地域子育て支援の充実
- V 椎の実子供の家園舎建替事業

I 生活や遊び、運動を通して「生きる力」を育む保育の推進

0、1、2歳児は保育士との信頼関係を基本に、いつも同じような生活リズムで過ごすことにより日々穏やかに生活をする事が出来た。友達との関係も徐々に広がり、模倣をしたり、共に遊ぶ姿が見られたり、充実したものになっていった。晴れている日は積極的に外遊びを行い、散歩にも出かけるよう心掛けた。制作も意欲的に取り組み、作品を階段や踊り場に飾り、保護者の方に見て頂く工夫をし、お子さん達の成長を知っていただく機会にもなった。

幼児クラスは生活の基本を縦割り混合クラスで過ごすことにより社会性を育むよう努めた。また「憧れ」や「思いやり」など大人が言葉では教えられないことを子ども同士で育てていった。火曜日は体操、水曜日はリトミックと決められたスケジュールに基づいて活動することで生活にメリハリが付き、意欲をもって活動することが出来た。また体操とリトミックは年齢ごとに活動することで発達段階に合わせた内容で、用具や楽器を使って専門性がある活動を行うことが出来た。絵画制作は担任保育士が担当し、月に1回行い、季節を意識した作り物を楽しんだ。散歩では、武蔵野森公園の固定遊具や、調布自由の広場の芝山で遊ぶなど体を使った遊びも楽しんだ。

また日本棋院よりプロ棋士を講師に招いた囲碁教室の取り組みは2年目となり、より楽しむことが出来た。ルールがある遊びを行う中で、勝敗を通して競争心が芽生えていった。負けると泣く子もいたが、次の意欲に結びつけることが出来た。開始前後の挨拶や対戦中の礼儀作法なども学ぶことができた。一方で交流リトミックが9月で終了したことは残念であった。

以上のように、生活や遊び、運動を通して総合的に保育を進め、健康な体づくりに力をいれた。このことで、自分を取り囲む事象や人に関心を持ち、心身共に調和ある人格形成へと繋げることができた。

II 人材育成のための階層別研修計画の実施

当年に策定した「椎の実子供の家、第二椎の実子供の家 研修計画」に基づき、職種、職責、

経験等にあわせた外部研修へ積極的に参加することができた。管理職はマネジメント研修に、主任は主任研修、一年目の職員は新任研修に参加した。

また職員一人ひとりが明確な目標に向かって職務を全うし職責を果たしていくために、上位者による1対1のOJTを実施し、これからの保育園を担う人材として成長していけるよう、指導していく体制を継続した。

平成28年3月に策定した「椎の実子供の家、第二椎の実子供の家 階層別研修計画」は国のキャリアアップ別研修にあわせた階層を加え、平成30年3月に改訂した。

昨年に引き続き、臨床発達心理士による発達相談を行った。保育士が特性のある子ども、発達に課題のある子どもへの適切な援助方法を学び、職員全員が一貫した対応ができるよう必要な援助方法を学び、実践した。その他大学講師を招き保育や食育の質を高める講座を開催した。

当園は、保育士不足で担任が派遣保育士のクラスもあったが、両園での公開保育はできる範囲で行った。1歳児クラス（見学のみ）、2歳児クラス、幼児クラス別に3回実施した。適度な緊張感を持ちながら、実施計画に沿った保育を行うことで、保育の配慮事項の再確認や振り返り、保育の質の向上を図ることが出来た。

Ⅲ 衛生管理、安全管理の周知及び徹底

施設内の環境を常に適切な状態に保持するとともに、保健的環境の維持及び向上に努めた。

「メール等一斉配信システム」を導入し、実際に9月1日の園児緊急引き渡し訓練においても、配信利用を行った。

Ⅳ 地域活動の取り組み及び地域子育て支援の充実

年間を通して、一時預かりが常に定員4名を充足するような状態だった。待機児や、子育てが大変と感じる家庭の定期的な利用が多かった。

地域の子育て支援として子育て家庭に対し配布していた「しいのみクラブニュース」は園庭開放などで配布、当園ホームページに掲載した。入園を意識した見学者にも、「しいのみクラブニュース」をお渡しすることで、興味を持ってその後も遊びに来ていただくことができた。「高齢者との交流」や「小学生との交流」、「地域親子のサークル活動の支援」はこれまで大切にしてきた特徴ある事業として継続して行うことができた。

土曜日の一時保育について、本園と第二椎の実子供を家の職員が連携して行った。

Ⅴ 椎の実子供の家 園舎建替事業

園舎の建替に向けて、両園職員による園舎建替プロジェクトチームの活動を継続した。また平成29年9月には公益財団法人社会福祉振興試験センター主催のドイツ、フィンランドへの13日間の海外研修に、保育士1名が参加した。海外における、モンテッソーリ教育、シュタイナー教育、レジョエミリアの手法を行う園などを視察することができた。また他園の参加者との交流により、多くの刺激を受けた。プロジェクトチームの活動報告と海外研修については、平成30年1月21日に合同研修会を開催し、研究成果の発表を行った。

1 園児について

園児とクラス編成

(1) 定員90名(現員97名)

(2) 年齢別

- ① 0歳児 9名 ② 1歳児 16名 ③ 2歳児 18名
 ④ 3歳児 18名 ⑤ 4歳児 18名 ⑥ 5歳児 18名

(3) クラス編成と職員構成

クラス名	対象年齢	定員	在籍数	保育士	職員数
たんぽぽ	0歳児	9名	9名	3名	園長 1名 副園長 1名
すみれ	1歳児	16名	16名	4名	
つくし	2歳児	18名	18名	3名	保育士 16名
あんず1組	3歳児	9名	9名	2名	(派遣保育士3名含む) 看護師 1名
	4歳児	9名	9名		
	5歳児	9名	9名		
あんず2組	3歳児	9名	9名	2名	栄養士 1名 調理師 2名
	4歳児	9名	9名		
	5歳児	9名	9名		
合計		97名	97名	14名	非常勤職員 13名
一時預かり		4名		2名	35名